

昔の田嘉里地域模型作り

地形図を広げての田嘉里区の地形・隣接集落との境・村境などの確認



カット作業時、間違わないため色鉛筆で等高線の色分けした。



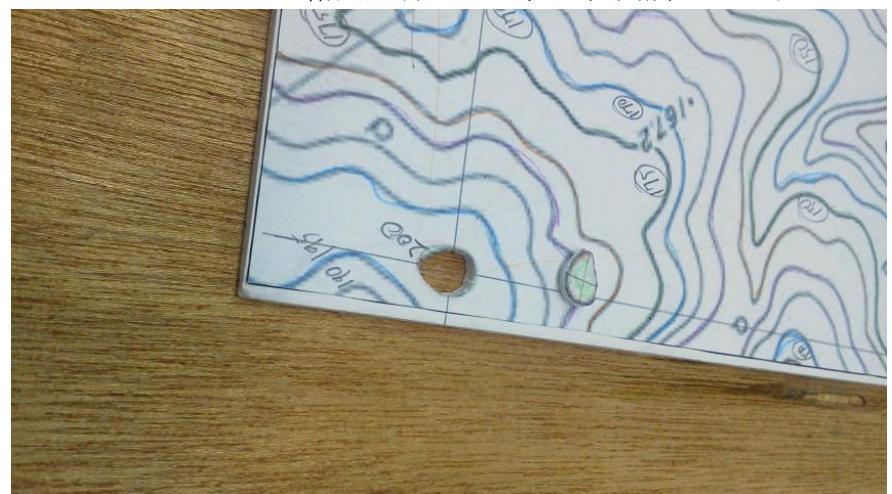
地形図を4等分し作業効率をあげた。



スチレンボードのカットの練習。



いよいよカット作業スタート！
スチレンボードと地籍図を合わせて、一番高所からカット！



カットはシュウチュウ！ 剥離可能なスプレーのりで地形図をスチレンボードに貼ります



見学者も作業に興味津々。

郷土への想いも言葉に出ます。



立体の形が見えてきた



合体作業



那覇在住の出身者も子どものころに遊んだ山を懐かしむ



地元の若者も何を感じた・・



基本立体模型完成！



終わりに

地域模型作りの方法は、やんばる学びの森の山川氏より、那覇市在住の設計士を紹介していただいた。

氏にはお忙しい中、こちらの都合に合わせていただき、那覇市の事務所で地形図を立体模型にするための方法を一からご指導いただいた。必要物品、図面の縮尺に関するここと、複雑な等高線を間違わずにカットする方法は実際の作業を練習させていただいた。当初は理解できなかつたが何度か練習するうちに要領を得てきだ。

検討を重ねた結果 2000 分の 1 の地形図を立体模型にすることにした。スチレンボードは 3mm 板を使用することにした。3mm は約 5m に相当する縮尺となつた。出来上がりサイズは 728cm×180cm となつた。

地形図立体模型作りは作業が緻密であるため、主に4人の有志を中心に作業した。子どもたちは作業の見学、地形図立体模型完成後に自宅の模型を作つてもう予定である。実際の作業に至るまでに地形図の準備に手間取り、作業開始が年末になつてしまつた。

地元住民の手作り地形模型作りを目標としていたので、それぞれの仕事の合間を縫つて作業にあてた。試行錯誤しながらではあったが、なんとか地形図立体模型は完成することができた。

また、この作業を通して、一人の若者が積極的に参加するようになったことは、地域の人材発掘としても大きな成果があつた。

作業は公民館で行つていたので、区民が度々見学におとづれた。立体の地形図が形に現れてくると、田嘉里の地形をあらためて認識したことや、ほとんどが山に占められている地域であること、昔の思い出や生活、山の植物、生き物などの話が話題となつた。

今後、老人会員や地域の地理に詳しい方に参加していただき、異年齢間の交流をとおして 地域の自信と誇りを育むことができると思ふ。

また、地域の災害予防対策や、地域おこしの資料になれば幸いである。

※前川報恩会注記：HP 公開にあたり、個人情報保護の観点から了承を得た方以外の個人名記載のある本文及び謝辞に関しては、割愛させて頂きました。